

吉松研究室 第1回修士議事録

日時 : 2014年4月5日 土曜日 11:05~12:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士テーマ発表

1. 修士テーマ発表

■板部

- ・IターンやUターンにおける全国の成功事例や失敗事例を研究して、人々がまちや人とのつながりをどうすれば作りやすいのかまとめる。
→問題意識としてはシンプルで良い。
- 建築学科の修士論文や修士設計になるかは難しいが、全国の事例研究をまとめるのはある。
- まずは論文を大量に読む。それらの善し悪しが論理的に説明でき、要約できるなら論文はかける。
- 似たような論文を10本くらい探してくる。

■山田

- ・「間」=「関係性」=「時と場合によって変化する、自分とモノとの心理的な距離感」と定義。
- ・距離感の操作（行間を読むこと）によって、「間」を感じさせる建築を提案する。
- 「間」はだめではないが、自分らしさが無い。皆やっている。
- 頭で考えるのではなく、心で考える。
- 自分の経験を含めて、自分にしかできないものを考える。

総評

- ・とにかく2人とも勉強する。

次回ゼミ

- ・2014年4月10日 山田記念室

吉松研究室 第2回修士議事録

日時 : 2014年4月10日 木曜日 17:00~18:30
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究
 2. プルネイまとめ
-

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・移住に関する論文で調べられているのは主に中山間地域。
- ・移住地として空き家を提供、体験交流住宅や定住促進住宅を設けて移住しやすい環境を整えている。(島根県隠岐郡海士町、西ノ島町/山口県周防大島町)
- 富山はコンパクトシティの先駆けとなったまち。
- 成功事例を探す。
- これをどうにかすれば全て解決できるような問題を探す。

■山田

- ・まちの玄関口であるホームは、もっとそのまちの一部として考え、町の個性を見せるべきではないのか。
- ・ホーム自体は人の列車への乗降と、貨物の積み降ろしを行うという考え方から変わることなく、昔の姿と変わらない。
- ホームは乗降者数に合わせて大きさが決まっている。空間をデザインすることで解決できる問題じゃない。
- 交通のためだけにしかない駅についてどう考えるか。デザインを考えている建築家もいる。
- 駅のホームが開放的じゃないというだけでは修士にはならない。できていない理由を調べた上で、問題意識を持つ。

2. プルネイまとめ

- 何を伝えるのか、何のホームページなのかが重要。まずはそのために何を書けば良いのかをまとめる。
- カンボンアイルに住む3万人の人々がどのような生活をしているのかを示した記録として残す。ジェットのしくみ等も書く。
- 撮影して来たストリートファサードをつなげる。

総評

- 2人とも勉強がまだまだ必要。
- まずはプルネイ院ゼミ旅行のまとめをすること。

次回ゼミ

- ・ 2014年4月17日 山田記念室

吉松研究室 第3回修士議事録

日時 : 2014年4月17日 木曜日 17:30~18:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部
 : M1 白井
欠席 : 山田

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・福岡県朝倉市の移住者向けの住宅地（美奈宜の杜）は日本初のシニアタウンとして作られた。
- ・美奈宜の杜は市街地と離れており、車がないと生活できない。移住した高齢者が車に乗れなくなると、まちを離れて行く現状がある。
- 朝倉市について調べていてもダメ。
- どうすれば板部と同じように地元が良いなと感じてもらえるのか考える。
- 鉄道がなくなっている場所をどうするのか等の交通のシステムも考える。

次回ゼミ

- ・ 2014年4月24日 山田記念室

吉松研究室 第4回修士議事録

日時 : 2014年4月24日 木曜日 17:30~19:00
場所 : 第4研究室
出席 : M2 板部 山田
欠席 : M1 白井

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・福岡県の筑後地区では地区全体で移住の取組を行っている。(地元のある朝倉市はこの取組での筑後地区範囲には入っていない)「ちくご暮らし」「ちくご移住計画」
- もっと周辺の市町村で成功しているところはないか調べてみる。

■山田

- ・まちの玄関口であるホームは、もっとそのまちの一部として考え、町の個性を見せるべきではないのか。
 - ・ホーム自体は人の列車への乗降と、貨物の積み降ろしを行うという考え方から変わることなく、昔の姿と変わらない。
- ホームは乗降者数に合わせて大きさが決まっている。空間をデザインすることで解決できる問題じゃない。
- 交通のためだけにしかない駅についてどう考えるか。デザインを考えている建築家もいる。
- 駅のホームが開放的じゃないというだけでは修士にはならない。できていない理由を調べた上で、問題意識を持つ。

総評

- 2人とももっと調べること。
- ブルネイのまとめを早くやる。

次回ゼミ

- ・2014年5月8日 山田記念室

吉松研究室 第5回修士議事録

日時 : 2014年5月8日 木曜日 17:30~19:00
場所 : 第3研究室
出席 : M2 板部 山田
欠席 : M1 白井

院ゼミ内容

1.ブルネイまとめ

1.ブルネイまとめ

- ・ブログでまとめ方をアップ。
- ・集めた資料をまとめる。
- 国民の1/10がなぜカンポンアイルに住んでいるのか？
- どのように暮らしているのか？インフラ/ジェッティ/小学校などについて
- 生活感が分かる写真を載せる。

次回ゼミ

- ・ 2014年5月15日 山田記念室

吉松研究室 第6回修士議事録

日時 : 2014年5月15日 木曜日 17:30~19:00
場所 : 第3研究室
出席 : M2 板部 山田
欠席 : M1 白井 (B4に指導していたため)

院ゼミ内容

1.ブルネイまとめ

1.ブルネイまとめ

- ・ブルネイブログチェック。
- カンポンアイルに行った事のない人に疑似体験をしてもらえるようなものをつくる。
- ブルネイの国についての情報も必要だが、カンポンアイルについてのまとめが一番重要。メニューの順番と構成をもう一度考え直す。
- 現地で歩いた場所が分かるように示す。
- 現地で集めた地図に解説をつける。
- ムービーの速さはもっと速くて良い。

次回ゼミ

- ・ 2014年5月22日 山田記念室

吉松研究室 第7回修士議事録

日時 : 2014年5月22日 木曜日 17:30~19:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
 : B4 伊藤 大沼 小川 田澤 内田 若月
欠席 : なし

院ゼミ内容

1.ブルネイまとめ

1.ブルネイまとめ

- ・ 作成したブログの確認。
- 基本情報のページを半分に分ける。リンクで飛べるようにする。
- 人がいる写真をもっと載せる。

次回ゼミ

- ・ 2014年5月29日 山田記念室

吉松研究室 第8回修士議事録

日時 : 2014年5月29日 木曜日 18:00~20:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究
 2. 院ゼミ旅行
-

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・伊達市は定年を迎えた世代に対してIターンを行っている。
- Iターン・Uターンの知識を得る。
- Iターンの人をどうやって連れてくるのか？
- Iターン・Uターンの成功事例を見つける。
- 実際に自治体に行ったり、ヒアリングをしてみる。情報を手に入れつつ見に行く。TEL でもいい。自治体が施設を持っていたらそこに行ってみる。

■山田

- ・土木学会デザイン賞など、土木は建築に歩み寄ってきていて、津和野川の整備等、デザインでまちを変えることもできている。建築も周辺環境を考えているけれど、敷地内で終わってしまっている。
- ・土木は常に周辺と一体に考えられており、自己完結性が弱い。
- ・建築の集合で町の景観はできている。土木の特徴を取り入れた建築を考え、クライアントである住民の景観に対する意識を変えて行ける提案をしたい。
- 土木は土木の分野なので手を出せない。景観論などを読んで、景観について考えてみる。
- 実際に土木構造物を見に行く。作り方を建築に応用している事例を探す。

2. 院ゼミ旅行

次回ゼミ

- ・ 2014年6月5日 山田記念室

吉松研究室 第9回修士議事録

日時 : 2014年6月5日 木曜日 18:00~20:00
場所 : 第4研究室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・ 移住体験施設以外の移住者のための施設
- ・ 移住に関する取組を積極的に行っている筑後地区の市町に取組について聞いている。
有機農業サポートセンター（徳島県小松島市）／夢来来（広島市江田島市沖美町）
- 移住者のための施設を探すのではなく、移住者のための窓口があったりする所を見つけて、そこについて調べたりヒアリングしてみたりする。

■山田

- ・ 景観を考えても、表面的なものしか作らないのでは、魅力的な風景は生まれない。行政や設計者が作るのではなく、その土地に合った暮らし方などを、住民が作って行けるような仕組みを作らないといけない。
- ・ 土木と建築の境界を変えることで、その先住民たちが風景を作る仕組みを作りたい。
- 景観は広すぎるので、土木と建築で進める。
- 押し付けのデザインや仕組みは受け入れられない。緩やかに全体を作って行く押し付けない都市デザインが良い。
- 外国の建築の方が土木と融合しているものもある。

次回ゼミ

- ・ 2014年6月12日 山田記念室

吉松研究室 第10回修士議事録

日時 : 2014年7月3日 木曜日 19:00~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士設計テーマ発表

1. 修士テーマ発表

■板部

- ・ 筑後地区が移住への取組を行っている。
→なぜそこで取組が行われているか。周りの市町がなぜ取組をあまり行っていないのか。まともな都市圏がまわりにあるか等を調べてみる。
- 地方都市では雇用を作り出すことが重要。
- 魅力がなかなかないところにどうやって人々に来てもらうのか。
- 建築的にやっている事例を見つける。まちの顔プロジェクト（富山）など。

■山田

- ・ 土木と建築は乖離しているが、少しずつお互いに歩みよろうとして来ている。
- ・ 活動時間の短さやスケールの大きさによって、建築に比べて土木は遠い存在に感じる。
- ・ 本当は近い存在である土木に、建築と人のような関係を作ること、土木に対する人の意識も変わって行く。
→すごく小さな駅をやる。それによってまちおこしをしている例を探す。
- 土木の人が抱え込んでいたものがゆるくなりデザインが取り入れられるようになって来た。由布院の駅、ハイウェイオアシスらん藤岡。
- 篠原修によって、建築家が常に考えて来たデザインを土木でも取り入れるようになって来た。
- 建築家に関わることでブレイクスルーできた例を調べる。

次回ゼミ

- ・ 2014年7月10日 山田記念室

吉松研究室 第10回修士議事録

日時 : 2014年7月10日 木曜日 19:00~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士設計テーマ発表

1. 修士テーマ発表

■板部

- ・九州北部の県で移住に関する取組を行っているところを調べてみて、筑後地区が力を入れて取組を行っている事が分かった。
- 分析したものを見せる。1次データは人口など自分たちで手に入れた情報。2次データはそれらを取り出したもの。それを分析にかけて分かった事が重要。

■山田

- ・小さい駅が多い相模線を見て来て、その中でも宮山駅は寒川神社の最寄り駅であるため正月には観光客が多く路用するが、普段は住民のみが利用する駅であることが分かった。
- ・相模線の各駅は小さいものが多く、無人駅もある。駅舎の必要性に疑問を持った。
- ある駅自体の問題よりも、まちにとってこれからの駅はどうあるべきかを考える。
- 日本にとって駅は町の中心であったが、地方では駅の役割が果たせなくなっている。町の構造を考え直す提案をする。
- 郊外の中心地がどういうものであるべきか、根底から考え直す。

次回ゼミ

- ・ 2014年7月17日 山田記念室：修士研究パネル2枚

吉松研究室 第11回修士議事録

日時 : 2014年7月17日 木曜日 19:00~21:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
欠席 : なし

院ゼミ内容

1. 修士論文設計研究
 2. 院ゼミ旅行
-

1. 修士論文設計研究

■板部

- ・移住・定住問合窓口、移住・定住サイト、空き家バンク、移住体験施設、市町町営住宅・定住促進住宅の5項目で調べた結果、福岡県内で4項目以上当てはまる市町が筑後地区に集中している。
- ・すべての項目に当てはまる柳川市は観光地で、新しく大きい道路が通り、その場所が生活の拠点のなり始めており、城下町のある市街地が衰退しつつある。
 - 車がなくてもまちは生きて行ける。例：コッツウォールド地方（イギリス）
 - 鉄道とは限らないが、交通は大事。インフラが普及する事で地方は生きて行ける。
 - 地方都市は企業を引っ張って来て雇用をつくらうとしている。人口が増えれば○。
 - なぜ筑後地区で取組を行っているのか。

■山田

- ・江ノ島電鉄、都電荒川線、JR 相模線を比較した、相模線は周辺に自転車がたくさんとめられており、住民の重要な足であることがわかる。
- ・レファレンスとしては、上州富岡駅と三ノ輪橋停留所。富岡駅は観光地の最寄り駅で、その駅ができることで役場や観光地と関係性も生まれた。三ノ輪橋停留所は町と非常に近い関係にある駅で、ホームを通り抜けて店に行ったり、公園のように使っている人も多かった。
 - ヨーロッパの駅を調べる。カラトラバの駅。
 - 一度減った路面電車が見直されている。路面電車がどのように町を良くして行こうとしているのか調べる。
 - 他にも小さな駅を調べてみる。ビジョンを明確に。

2. 院ゼミ旅行

総評

次回ゼミ

- ・ 2014年7月24日 総合講評会：修士研究パネル2枚、ブルネイの展示
- ・ 2014年7月31日 山田記念室：修士テーマ発表

日時 : 2014年7月31日 木曜日 14:00~15:30
場所 : 山田記念室
出席 : M2 板部 山田
 : M1 白井
 : B4 伊藤 大沼 小川 田澤 内田 若月
欠席 : なし

院ゼミ内容

1.修士テーマ発表

1.修士テーマ発表

■板部

- 「人と人、人とまちをつなぐ居場所 -まちへの愛着や誇りを持って暮らす-」
- ・移住者やまちで暮らす大人や子どもがまちへ愛着や誇りを持って暮らせていない。
 - ・九州北部4県を調べて、移住に関する取組を特に行っているのは福岡県筑後市、柳川市、佐賀県武雄市、熊本県玉名市。人口が増加している福岡県大木町。住みたい田舎ランキング1位熊本県宇土市。
 - ・敷地：福岡県筑後市、熊本県宇土市
 - ・まちらしさのあるデザインの交流センターのような場をつくる。
- 板部の言う居場所とは何か？抽象的な言葉で説明しない。
- 移住についての取組を行っているか行っていないかで調べていても進まない。
- 人口が増加しているところを敷地にしていて意味があるのか。板部のスタートは地方の人口が減っている事。発表した市町のなかでは武雄市の施設を見に行く方がまだいい。
- 1ターンに成功している海士町等が行っていることで建築的な問題を見つける。

■山田

- ・ベッドタウン化し、通過するだけになっている郊外の駅では、大きな駅と同じような開発をしてもまちの中心にはなれない。駅を駅だと思うことで身近に感じない。鉄道のイメージを変えることで駅を駅だと感じさせない提案をする。
 - ・相模線全体が一つの施設になるような提案をする。単式ホームを敷地として、エキナカのように利用でき、まちからも使えるようにする。
 - ・土佐くろしお鉄道の中村駅は改札がないため、ホームまで切符なしで行くことができる。公園のように利用されている。
- 中村駅をデザインした人にインタビューに行く。実際に見に行けると良い。
- なぜその敷地を選ぶのか、普遍的な問題意識である必要がある。
- マイナーな路線を見に行く。サーベイは一日通して見る。
- 役所のような提案ではなく、空間的・都市的な提案をする。